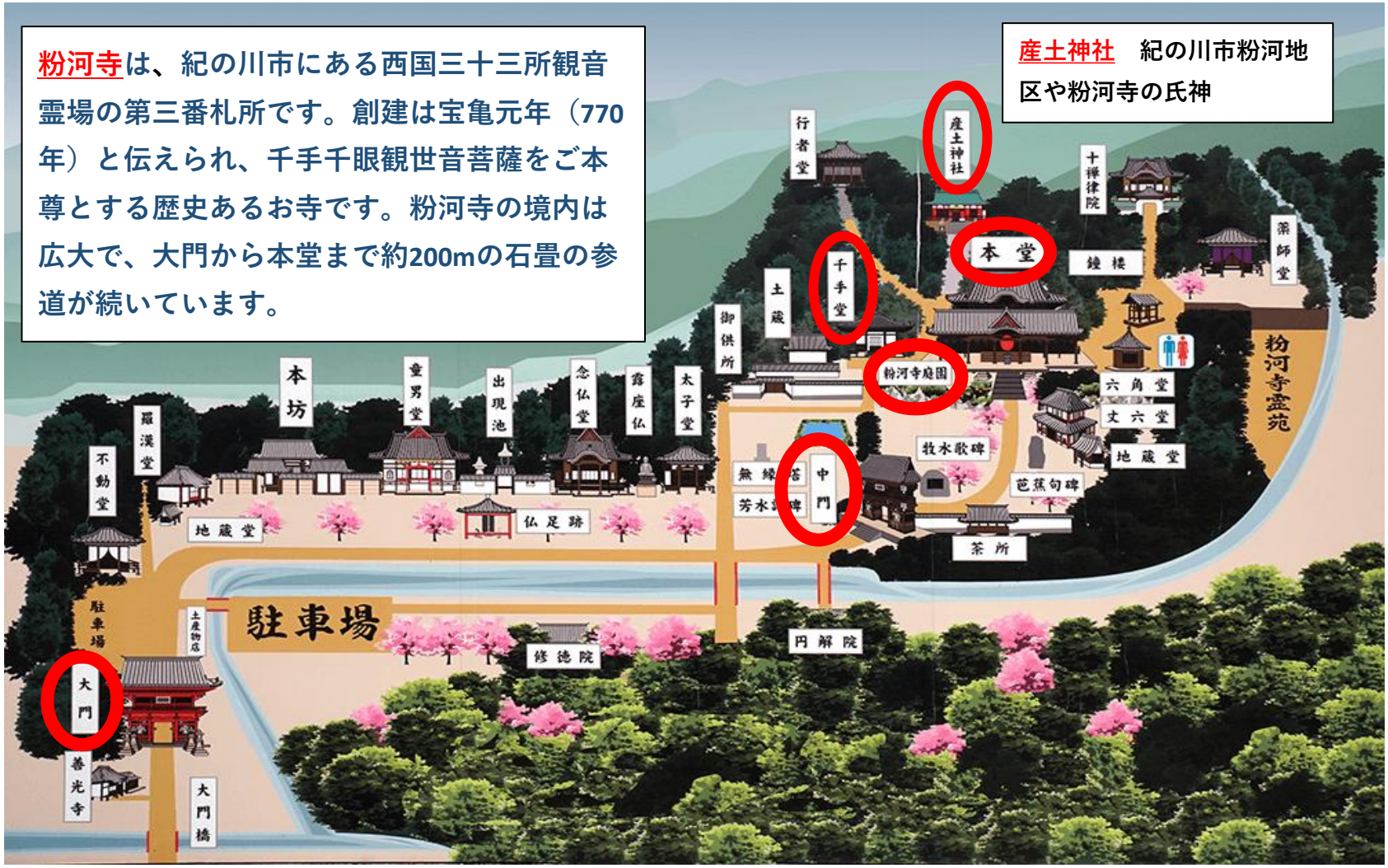
粉河寺は、紀の川市にある西国三十三所観音霊場の第三番札所です。創建は宝亀元年（770年）と伝えられ、千手千眼観世音菩薩をご本尊とする歴史あるお寺です。粉河寺の境内は広大で、大門から本堂まで約200mの石畳の参道が続いています。



＜参詣コースの概要＞
（文化財）

❶大門　規模の大きい三間楼門で、和歌山県では、高野山・根来寺に次ぐ威容を誇る。宝永四年（1706年）総欅造り。金剛力士は仏師春日の作と云われ、尊像の用材は桂の巨木。

❷中門　三間二戸の桜門として標準的な規模をもち、軒まわりまで良質の欅材で繊細な建物に仕上げている。天保三（1832年）の建立で四天王を祀る。屋根の下には紀州徳川家十代藩主、治宝公直筆の「風猛山」の扁額が掲げられています。

❸粉河寺庭園　中門をくぐると左手に見えるのが、国の名勝に指定されている粉河寺庭園です。本堂前の庭園と下の広場の高低差を利用した、珍しい石組みの庭園で、本堂を仰ぎ見る際の美しい前景となります。

❹千手堂　宝形造りの三間堂、細部様式では本堂と一脈相通ずる面を持っている。宝暦十年（一七六〇）の建立。正面に千住観世音菩薩両側の脇壇には紀州歴代藩主とそのゆかりの人々の位牌を祀っている。

❺本堂　八世紀（七七〇）の創建より、数度の造営と改造を繰り返し、現存の当本堂は享保五年（一七二〇）に再建された。江戸時代中期の欅材による代表的建築で西国三十三ヶ所の中で最大である。他に類例を見ない特異な形態で、一重屋根の礼堂と二重屋根の正堂とが結合した構成を持つ複合仏堂の形式である。